<table>
<tr><td>授　業
科目名</td><td>スポーツ法</td><td>※必 修</td><td>開講年次</td><td>３</td><td>単位数</td><td>２</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td colspan="6">専門科目</td></tr>
<tr><td>サブ
タイトル</td><td colspan="2">スポーツ関係法規の理論と実際</td><td>担当者</td><td colspan="3">諏訪　伸夫</td></tr>
<tr><td>講義概要</td><td colspan="6">【概要】現代のスポーツは、高度化と大衆化の２極化現象が進展している。それに伴い、スポーツに関する法とルールは、その実際面において益々増加・多様化し、理論面において専門化・複雑化してきている。そのため、本講義内容は、多岐にわたるが、大旨、スポーツ事故の責任と賠償、スポーツと人権論、およびスポーツ振興論に関する法規及びルールに３区分される。さらに、講義を進めていく過程で、関係する多くのスポーツをめぐる裁判判例を紹介し、解説する。
【到達目標】　可能な限り内外の多くのスポーツ関係法規の実際にふれ、また、その理論面についても、基礎的教養レベルから模擬法廷にのぞめるレベルに到達することを目的とする。</td></tr>
<tr><td>履修条件</td><td colspan="6">将来スポーツ関係職務を希望する者、教員希望および公務員をめざす者が望ましい。</td></tr>
<tr><td>教科書・
参考書</td><td colspan="6">【教科書】
ケーススタディ SPORTS ACCIDENT（改訂第5版）伊藤尭編著、体育施設出版、2007年、3,150円
【参考書】
スポーツのリスクマネジメント　小笠原正・諏訪伸夫編著、ぎょうせい、2009年、3,000円
導入対話によるスポーツ法学　小笠原　正監修、不磨書房、2007 年、2,900 円</td></tr>
<tr><td>授業回数</td><td colspan="6">内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="6">オリエンテーション・・・法とは</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="6">スポーツの法とルール（１）・・・その意義</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="6">スポーツの法とルール（２）・・・その構造</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="6">わが国のスポーツ法（１）・・・スポーツ振興法</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="6">わが国のスポーツ法（２）・・・スポーツ振興投票法（サッカーくじ法）等</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="6">諸外国のスポーツ法（１）・・・人権保障とユネスコの体育・スポーツ国際憲章等</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="6">諸外国のスポーツ法（２）・・・アメリカ・イギリスのスポーツ法</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="6">諸外国のスポーツ法（３）・・・ドイツ・フランスおよび中国・韓国のスポーツ法</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（１）・・・スポーツ事故と責任①民事上および刑事上の責任</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（２）・・・スポーツ事故と責任②過失責任と免責</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（３）・・・スポーツ事故と責任③製造物責任</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（４）・・・スポーツの契約と紛争：フリーエージェント等</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（５）・・・スポーツ紛争：肖像権とパブリシティ権</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（６）・・・スポーツ紛争：スポーツ仲裁裁判所等</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="6">現代スポーツの諸問題（７）・・・スポーツ紛争：スポーツとジェンダー（男女平等）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">授業内小テストや授業中に出した課題に対するミニレポート、さらには出席状態も考慮して総合的に評価を出す。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">上記の各授業内容の概略を理解した者については「Ｃ」とし、その理由や根拠、背景等も理解した者については「Ｂ」、内外の主要な学説や判例等を理解し、自己の見解を適切に表現できた者については「Ａ」とする。各授業内容の理解自体が不十分な者は、その程度に応じて「Ｄ」または「Ｅ」とする。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="6">※Ｄ・Ｅカリキュラム（法学・ＩＴビジネス・経営法）コースの学生は選択科目</td></tr>
</table>